

茨城県図画工作・美術教育研究部研究調査委員会 授業実践研究報告(令和元年8月)

研究テーマ	感性や想像力を働かせ、主体的にイメージを表現するための授業の工夫 —第3学年「空想の世界への誘い～自分を探して～」の実践を通して—
-------	--

龍ヶ崎市立城南中学校 教諭

I 研究テーマについて

1 主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成29年告示）美術の中で、これまでの成果として「図画工作科、美術科、芸術科においては、創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心を持って、生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むこと等に重点を置いて、その充実を図ってきた。」「一方で、感性や想像力を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実質的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること等については、さらなる充実が求められるところである。」と記されている。今後の美術科教育の方向性としては、「感性や想像力を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう内容の改善を図る。」等と記されており、表現と鑑賞を相互に関連させることと、共通事項が一層重視されている。これまでの実践の中で、表現活動の導入として鑑賞を行ってきたが、どうしても「鑑賞した作品がお手本であり、正解である」と思ってしまうのか、導入の鑑賞作品に似た作品を作りだそうという生徒が多くいた。

そこで、本研究では生徒が自ら想像力を働かせて作品制作に向き合えるような授業の工夫を研究主題として設定した。本校では、「他者と関わりながら、主体的に学習できる生徒の育成」を研究テーマとして、共に学び合うことのできる生徒の育成を目指している。美術における「主体的な学び」とは、自らの表現しようとする主題を生成したり構想したりする場面や、表現のための創造的な技能を働かせる場所など自己の見方や感じ方を大切にして創造的に表現したり鑑賞したりする学びのことであると考える。この題材を通して自分の思いやイメージを自分自身で決め、表現する力を養い「感性や想像力を働かせ、主体的にイメージを表現するための授業の工夫」を達成できるようにしたい。

2 研究の仮説

中学校第3学年「空想の世界への誘い」において、空想や想像を主題とした作品を徒同士で対話しながら鑑賞し合うことで多様な見方や考え方につき、感性や想像力を働かせることができると考える。また制作の場面では、自己の内面に迫り自分を見つめられるようなワークシートの工夫と、制作するための方法の提示をすることで、自ら主体的にイメージを表現する力を育むことができるであろう。

II 研究の実践

1 題材名 空想の世界への誘い～自分を探して～

2 題材の目標

- 錯視や錯覚の効果を生かした表現をすることに関心をもち、主体的に創意工夫をして表したり、表現の工夫を感じ取ったりしている。(関心・意欲・態度)
- 錯視や錯覚の生かし方を考え、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や強調などを考え創造的な構想を工夫し、表現の構想を練っている。(発想や構想の能力)
- 材料や用具の特性を生かし、表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。(創造的な技能)
- 造形的なよさや美しさ、表したいイメージを基にした主題と表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態

質問	集計結果
絵を描くことは好きか	好き：10 どちらかというと好き：9 どちらかというと好きではない：7 好きではない：6
毎時間集中して作品制作に取り組むことができるか	できる：20 どちらかというとできる：15 できない：0
透視図法について理解し、描くことができるか	できる：20 どちらかというとできる：8
平面作品を描くときに、自分で苦手だと思うことは何か	アイディアを考えること：17 下書きをすること：19 色を塗ること：22 最後までしあげること：15
描かれているものの形や色の特徴から、絵のイメージをとらえることができるか	できる：20 できない：15

(男子18名 女子16名 計35名) 実施日 平成30年6月12日(単位：人)

本学級の生徒はこれまで表現のための基本的な技法や知識を練習し習得してきた。しかし、絵を描くことが好きではないと答えた生徒も多く、特に色を塗ることに関しては苦手意識が強いことが意識調査で分かった。一方、鑑賞の分野の問には前向きな意見を示す生徒が多く、これまで積み重ねてきた作品について、制作意図や作者の思いを読みとる活動が生きてきていると感じた。しかしそれでも「できない」と答えた生徒は少なくないため、この題材で今まで以上に鑑賞することの面白さを味わわせたい。

(2) 題材観

本单元は、中学校学習指導要領解説美術編「A 表現」の指導事項(1)「(ア)対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構想を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。」「B 鑑賞」「(ア)造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるな

として、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。」「共通事項」(ア)「形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。」を受けて設定した。生徒はこれまでに、モダンテクニックなどによって偶然生まれた形や色彩から発想・構想し、画面構成を行う活動を行ってきた。

本題材では、空想画を制作することを通して自分の内面を見つめ考えるためのひとつのかかけにしたり、主体的に発想・構想する能力高めたりすることをねらいとしている。自分の思いを表現する美術の中で、鑑賞活動から制作活動までの一連の流れを通して他者や自分の良さを理解できるようにするために、「対話型鑑賞」を各時間の中で取り入れていくようとする。

(3) 指導観

本題材では自分の中にある「不思議」に興味・関心をもち、現実にとらわれず、思考や行動を規定する常識を飛び越えた「空想」を思い描くことを重視する。本校生徒の実態は3(1)で述べたとおりであるので、アイディアを引き出すために様々な参考作品を見せるようにする。また、この時期の中学生は、自分の体験や経験から願いやあこがれ、喜び、悩みなど様々な感情を膨らませ、知的に構築された世界にも考えを深めることができる。過激な表現などに興味を抱きがちな年代であることにも留意しつつ、生徒それぞれの感性の豊かさを生かす表現を引き出すことができるよう、描かれた絵の良さを具体的に伝えていきたい。

(4) 研究主題との関連

生徒が感性や想像力を働かせ、主体的にイメージを表現するための工夫の実践として、対話型鑑賞活動、自己分析カード、彩色方法の提示、イメージスケッチと今日の1枚の4つを設定した。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
錯視や錯覚の効果を生かした表現をすることに関心をもち、主体的に創意工夫をして表したり、表現の工夫を感じ取ったりすることができる。	錯視や錯覚の生かし方を考え、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や強調などを考え創造的な構想を工夫し、表現の構想を練ることができます。	材料や用具の特性を生かし、表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現することができる。	造形的なよさや美しさ、表したいイメージを基にした主題と表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができる。

5 指導と評価の計画（8時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 (1時間)	空想画の作品を鑑賞し、描かれているものや作者の制作意図について班で考える。	空想や想像、錯覚の効果を生かした表現に関心をもち、主体的に創造的な工夫をして表したり、表現の工夫などを感じ

		取ったりしようとしている。
		■【ワークシート】
第 2 次 (1 時間)	描くものを探すために、自己分析を行い、心の中で考えていることを言葉や絵で表現する。	これまでの体験や空想、錯覚を生かした夢や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や強調、構成の仕方などを考え、創造的な構成を工夫し、表現の構想を練っている。 ■【ワークシート】
第 3 次 (1 時間)	投影図法・透視図法の基本をワークシートで練習し身につける。	■【ワークシート】
第 4 次 (4 時間)	テーマを決めて構想を練る。 イメージの文章化、アイデアスケッチを重ねる。 テーマを基に画面構成を工夫し、絵の具で彩色して仕上げる。	材料や用具の特性を生かし、表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。 ■【クロッキーブック・作品】
第 5 次 (1 時間)	完成した作品を友達と相互鑑賞する。	造形的なよさや美しさ、夢や心の世界などを基にした主題と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識を持って味わっている。 ■【ワークシート】

6 指導の実際

- (1) 第1次 空想画の作品を鑑賞し描かれているものや作者の制作意図について班で考える

8枚の、異なった作者の作品をグループで鑑賞する。作品の題名や、作者がどのような気持ちで描いたのか想像し、お互に「どうしてそう思ったのか」など対話しながら考えていく。生徒には左図のワークシート(資料1)を配付し、4人1組のグループで意見を交換し合いながらワークシートを埋めるよう指示する。授業者は、最後に作品の解

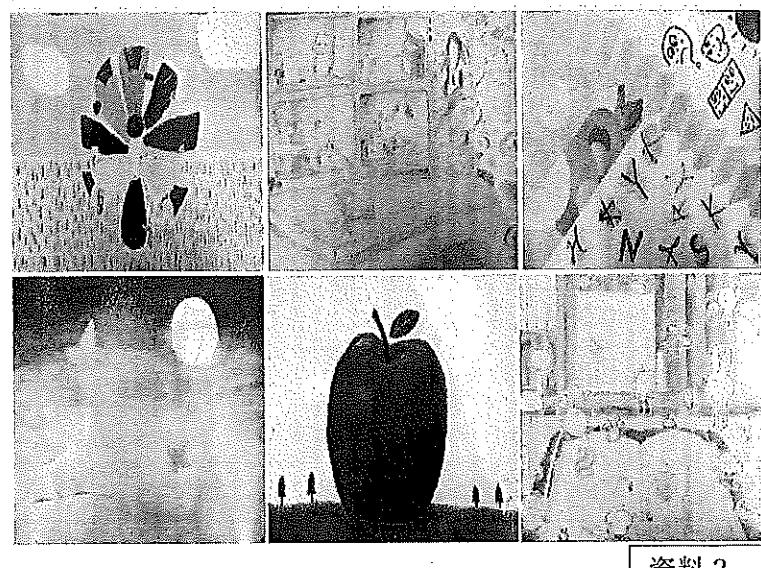
国際学年カード No.1 「空想の世界への誘い 特定用紙がお役立てる」試してみよう。			
解説書名			
大人の世界の本格的用紙と並んで、その世界を表現するための手帳用紙、不思議な用紙を使って、想像力を育む。この用紙は、想像力の開拓や、創造力の活性化、表現力の向上など、さまざまな効果をもたらす。また、この用紙は、SNSなどでよく見かけるアバターの作成にも、お手伝いします。	解説書	解説書	解説書
解説書	解説書	解説書	解説書
解説書	解説書	解説書	解説書
解説書	解説書	解説書	解説書
解説書	解説書	解説書	解説書

1			
2			
3			
4			
5			

資料 1

(2) 第2次 描くものを探すために、自己分析を行い、心の中で考えていることを言葉や絵で表現する

プレイインストーミングや
ウェビングマップを使い、
まずは言葉でアイディアを
発想していく。また、自己分
析カード(資料2)で自分自
身の考え方や想いについて
まとめていくことで、自分
が絵で表現したいものを探
っていく。



資料 2

(3) 第3次 投影図法・透視図法の基本をワークシートで練習し身につける

投影図法・透視図法は、2学年「風景画」の授業にて既習の事項だが、再び練習することによって新たなアイディアが生まれること、しっかりと技能を身につけるという意味を込め行う。

(4) 第4次

① テーマを決めて構想を練る

「心の中の世界」や「私の好きな物たち」など、各々が空想画のテーマを決めて、アイディアをクロッキーブックに書きだしていく。描いていくうちに使いたい画材や技法も思いついてくると思うので、そのたびにメモを取らせ、作品の完成に向けてのイメージを膨らませる。

② テーマを基に画面構成を工夫し、絵の具で彩色して仕上げる

今回の制作では、描画材は指定せず自由としていたが、半数の生徒が絵の具を使って仕上げようとしていた。本学級の生徒が苦手とする「色を塗ること」については、アクリル絵の具に混ぜる水の量や、筆の使い分けなどを再度確認してから行った。また、同じものを描いても表現技法によって印象が変わることを提示し、なるべく自分が表現したいものに近づけることができるようとする。

(5) 第5次 完成した作品を相互鑑賞する

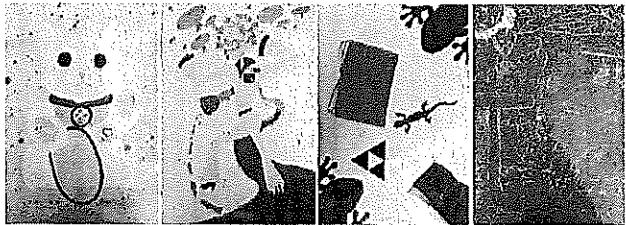
完成させた作品（資料3、資料4）

は、発表形式で相互鑑賞を行う。自分の作品について「良くできたところ・工夫したところ・努力したところ」「苦労したところ・難しかったところ」と「作品作り全体を通しての感想」を伝える活動を行う。

また、自己自身の取り組みについて

資料 3

評価を行い、生徒相互から見た自分の取り組みについても評価をもらう。



資料4

A・B・Cで評価しよう！			
計画に従って制作を進めることができましたか			
目標を持って制作に取り組むことができましたか			
集中して制作に取り組むことができましたか			
必要な用具を毎時間きちんと準備することができましたか			
テーマを決めて、作りたい物をイメージすることができましたか			
様々な作品に触れ、発想を広げ、楽しく作品を作ることができましたか			
構図や彩色方法を工夫し、自分らしい表現をすることができましたか			

III 研究の成果と課題

1 成果

質問	集計結果
空想画の授業に積極的に取り組めたか	とても取り組めた：8 取り組めた：20 あまり取り組めなかった：4 取り組めなかった：3
作品を鑑賞する力が高まったか	高まった：25 変わらない：10 低くなった：0
アイディアを発想する力が高まったか	高まった：15 変わらない：17 低くなった：3
絵を描いたり、彩色したりする力が高まったか	高まった：17 変わらない：16 低くなった：2
進んで作品制作する力が高まったか	高まった：18 変わらない：15 低くなった：3

(男子18名 女子16名 計35名) 実施日 平成30年12月21日 (単位：人)

(1) 対話型鑑賞活動

他者や自分の作品の良さをさらに理解できるようにするために行った対話型鑑賞活動では、お互いに質問をし合いながら作品について話し合うことができた。生徒同士の意見や質問から、自分が気づかなかつた部分まで注目して見ることができるので、いつもの鑑賞活動よりも深く鑑賞を行うことができ、鑑賞する力が高まつたと感じる生徒が多くかった。

(2) 自己分析カード

何もないところからの発想は難しいため、自分の内面や思っていることから発想

することを目的として行った。本学級の生徒には、ブレインストーミングやウェビングマップよりも、自分の描きたいものを探すためのきっかけとして適していたようを感じた。

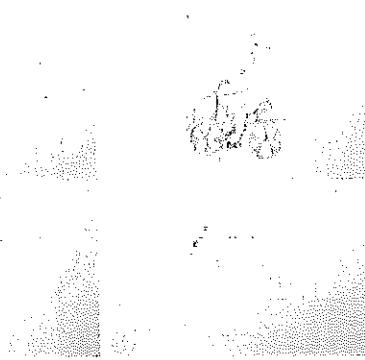
(3) 彩色方法の提示

彩色見本の例を作ることで、生徒は既習事項から思い出しながら表現方法を工夫することができた。また、一度習っていても忘れていることもあったため、水の量や道具の使い方を再度確認することは非常に効果的であった。参考として提示したモダンテクニックの例にりんごの型を使用したためか、りんごを描こうとする生徒が多くなってしまった所は課題である。

(4) イメージスケッチと今日の1枚

描きたいものがイメージできても、形にするための力が足りないと表現することができないので、導入として「イメージスケッチ」(資料5)と「今日の1枚」を交互に行った。イメージスケッチとは、グループごとに出されたお題を何も見ずに描く活動である。グループの中でお題についての特徴や描き方などを対話しながら描くことができるため、ほとんどの生徒がスケッチを描くことができた。今日の1枚とは、指導者が選んだ作品1つについて、「描かれているもの(写っているもの)」「使われている色や素材」「自分が思うこと」を簡単に書く活動である。この活動を続けたことで鑑賞の視野が広がり、友達や自分の作品を見て思ったことや考えたことを素直に伝えることができたのだと考えられる。

資料5



2 課題

対話型鑑賞では、グループの中に一人程度、活発に話すことができる生徒が居ないと活動が停滞してしまうため、グループの編成にも工夫が必要である。また、興味の方向は人それぞれのため、進んで話し合いたくなるような様々な種類の魅力的な作品の選定を行う必要があると感じた。そして、話し合い活動が停滞した際の教師の声かけによるつなぎの言葉も重要である。

空想画では生徒が表現したいものが大きく異なるため、一人一人に合わせた指導が大切である。また、一つの題材の中だけで、「感性や想像力を働かせ、主体的にイメージを表現する力」を高めることは難しく、今後も継続的に活動を行う必要があると感じた。

3 参考文献

- | | | |
|-----------------|------------------|----------|
| 文部科学省 | 『中学校学習指導要領解説美術編』 | 平成30年3月 |
| 浜島書店編集部著 | 『感じる 表す 美術』 | 平成29年12月 |
| 永閑和雄／安藤聖子編著 | 『中学校教育課程実践講座美術』 | 平成30年2月 |
| 京都市立芸術大学美術教育研究会 | 『美術資料』 | |

